

Dr.ひろみの

# ハッピー子育て

# か る た



みなさん、こんにちは！先日、長女が結婚式をすることになり、30年前に着たウエディングドレスを引っ張り出しました。無謀にも私が着てみたら、背中ファスナーが腰より上に上がらず、大笑い。私は小学生の頃、ちょっとしたことで落ち込む繊細な子どもでしたが、高校生の頃にはだいぶ図太く、人の目をあまり気にしなくなっていました。そして今、内面は大して変わっていません。子どもの頃はこころが大きく変化し、大人になると体型だけが大きく変化する。真実、恐るべし（笑）



☆読み手☆  
鈴木 裕美（すずき ひろみ）  
香川大学医学部 小児科専門医

60

**げん**きな時は 正論  
叱咤激励 受け入れ可  
弱ってるときは  
すべてが刃物



59

**た**だしさを  
やさしさを  
優先するべき  
時もある



今月のかるた解説

子どもに何を話すか、話してはいけないかに、正解はないのではないかと思います。親として子どもの成長のために、伝えたいことはたくさんあるはずですが、大切なのは話すタイミングではないでしょうか。宿題は全部終わらせるべき、頼まれたことはきちんとするべき、無理してでも頑張れば成長できる。こうした正論や叱咤激励は、子どもが言い返したり、スルーするくらいの「元気さ」がある時なら、言っても大丈夫。

一方で、「学校がしんどい」「自分はダメな人間だ」とこころが疲れているときは、すべての正しさが刃物になり、傷を深めてしまうことがあります。そんなときは、「そういう時もあるよね」「いまできなくても大丈夫」と、やさしさを優先した方がいい場合もあります。それは甘やかしてではなく、こころの包帯のようなものです。寒風摩擦は身体にいいと言われますが、傷だらけの皮膚にやるのは拷問ですよ。でもタイミングを見誤ることは誰にでもあります。私も先日、娘を傷つけてしまいました。だからこそ、話す前に子どもをよく見て、今は元気モードか、落ち込みモードかを確かめたいですね。……これも自分に言っています（笑）。ぜひ、一緒に。

